

がんサバイバーシップを科学する ～がんと生殖医療～

日時 2014年10月13日(月・祝) 13:00～17:00

会場 国立がん研究センター 築地キャンパス 国際研究交流会館

ご挨拶

がん診療の発展に伴い、がんの予後はかつてに比べ飛躍的に改善しています。がん体験者の数も年々増加傾向にあり、がん診療従事者には、がんの治療中や治療後の生活や人生、いわゆる「サバイバーシップ」に配慮した診療が求められています。なかでも若年のがん患者にとって、がん治療後の妊孕性はサバイバーシップ上の大きな課題のひとつであることが知られており、近年、国内外でさまざまな支援の取り組みが始まっているところです。

このたび、日本対がん協会、Japan Breast Cancer Research Group、国立がん研究センター、Japan for LIVESTRONGのご支援とご後援を得て、がん・生殖医療での取り組みを題材に、包括的ながん医療の提供にむけて必要な診療や研究へのアプローチを学んでいただく機会として、本研究会を開催する運びとなりました。

ご多忙中御来場くださった皆様に感謝申し上げるとともに、本研究会を通じて、現場のいろいろな局面で必要とされるがん患者のサバイバーシップ支援のあり方を考え、今後のアクションにつなげていただければ幸いです。

短い時間ではありますが、フロアからのご参加、どうぞよろしくお願い申し上げます。

厚生労働科学研究(がん対策推進総合研究(がん政策研究)) 推進事業
「小児・若年がん長期生存者に対する妊孕性のエビデンスと生殖医療ネットワーク構築に関する研究」
研究分担者 清水 千佳子

特定非営利活動法人 日本がん・生殖医療研究会
設立代表者 鈴木 直

プログラム

- 12:30～ **受付開始・開場**
- 13:00～13:05 **開会のあいさつ** 清水 千佳子(国立がん研究センター中央病院)
- 13:05～13:40 **若年がん患者が希望を持ってがんと闘うためのがん・生殖医療の実践**
司会：加藤 友康(国立がん研究センター中央病院)
演者：鈴木 直(聖マリアンナ医科大学)
- 13:40～14:15 **がん・生殖医療：がん患者・サバイバーの包括的支援への挑戦**
司会：大野 真司(国立病院機構九州がんセンター)
演者：清水 千佳子(国立がん研究センター中央病院)
- 14:15～15:15 **Survivorship for Young Women with Breast Cancer: Evolving Understanding and New Initiatives**
司会：大野 真司(国立病院機構九州がんセンター)
演者：Ann Partridge (Dana-Farber Cancer Institute)
- 15:15～15:30 Coffee Break
- 15:30～16:50 **パネルディスカッション “survivorship consciousながん医療の実現に向けて”**
司会：清水 千佳子(国立がん研究センター中央病院)
鈴木 直(聖マリアンナ医科大学)
演者：Ann Partridge (Dana-Farber Cancer Institute)
徳永えり子(九州大学)
古井辰郎(岐阜大学)
桜井なおみ(キャンサーソリューションズ)
- 16:50～17:00 **閉会のあいさつ** 鈴木 直(聖マリアンナ医科大学)